

名古屋市【愛知県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…
名古屋市教育局観光文化
財保護室／名古屋観光交
流局ナゴヤ魅力向上室／歴
史まちづくり推進室／公
法人名古屋観光コンベン
ションセンター他

■構想策定年度…
平成二十九年三月
■補助事業期間…
平成三十一年四月二日
平成三十一年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

本市構想では、名古屋城下や熱田神宮周辺など「名古屋を代表する文化財」と市域全体に広がる「身近なまちの文化財」に分けて課題を整理した。前者の重要性は市の主要計画などでも取り上げられており、着実に名古屋らしい魅力を創出し、歴史観光につなげていくことを目指す一方、後者についても市民参加の調査体験等でその価値を明らかとし、活用につなげていくことを目指すこととした。

観光拠点形成の方向性

- ・名古屋城や熱田神宮の価値を高める
- ・周辺地域に集客の拠点をつくる
- ・中心部と周辺部の拠点それぞれの価値を高め互いにつなぐ

観光に関する課題

- ・観光地が点として捉えられがち
- ・観光の目的地が少ない
- ・文化財の認知度が低い
- ・外国人の受け入れ体制が不十分

事業概要

アプリと連動した文化財観光マップ作成

観光拠点である名古屋城、熱田神宮から周辺へと広がる地域を中心に、歴史文化基本構想の関連文化財群を紹介するマップを作成した。30年度は守山区の志段味地区などを中心に、360°撮影データなどと連動させたマーカーを配したマップを制作した。

■KPI 市観光客・宿泊客数：
43,310,000人(H27)→47,000,000人(R1)

情報発信



アプリまち歩きルート of 著名人による紹介

重要な伝統的建造物群保存地区「有松」を対象とし、当地区でも有数の絞商家「竹田家」の中村倣子さんと町並みガイドボランティア「あないびとの会」加藤明美さんによる有松の町並みを紹介するホームページを公開した。「内」と「外」二つの視点から有松の魅力を情報発信できた。

■KPI 市観光客・宿泊客数：
43,310,000人(H27)→47,000,000人(R1)

情報発信



民俗文化財を通じた観光振興のシンポジウム

シンポジウム講師と保存会のみなさんのシンポジウムでは、祭礼が地域の再生に果たす役割が語られた。またツアー事業では、実際に神楽屋形を用いた祭礼の担い手から参加者に対する解説と体験指導が行われた。参加者の満足度も高く、今後のメニュー化の参考となった。

■KPI イベント等参加者数：200人(H29)→250人(R1)

普及啓発



観光コース起点歴史案内板

これまであまり整備の進んでこなかった美濃路を、ルートとして「見える化」を進めたことで、名古屋駅と名古屋城の間に位置する好立地を生かす素地を固めることができた。文化財観光基盤情報アプリ「なごや歴史探検」や、ウォーキング事業のマップとも連携が進んだ。

■KPI 市観光客・宿泊客数：
43,310,000人(H27)→47,000,000人(R1)

普及啓発



成果

① 外国人の情報利用者が増加

名古屋城・熱田神宮の来場者をもみても海外からの観光客の増加傾向が認められる。30年度観光文化財アプリ「なごや歴史探検」の多言語版ダウンロード数が476件あり、増加傾向にある。

② 観光資源として期待される、まちの文化財

マップなどで取り上げた文化財は指定文化財に限らなかったが、ウォーキングなどでも新しい発見があったと好評であった。こうした地域の文化財の「見える化」が十分に観光資源化につながることが確認できた。